1部復帰！ 令和二年度 大教スポーツ

サッカー部学長杯!!

奮闘する川西真斗選手

主将・村瀬悠介選手

一部復帰を果たした大阪教育大学男子サッカー部

第98回関西学生サッカー2部Aリーグにおいて、男子サッカー部は7勝2敗2分の好成績により1部復帰を果たし、本年度学長杯（団体）を受賞した。その躍進の鍵とは何か。文字通りの「キーパーソン」である両選手にお話を伺った。

「3年間にわたって目標が叶わなかったが、最後の年に次年度1部で活躍する舞台を後輩に残せて、その結果学長杯を頂けてとても嬉しい。」と語るのは、今年度のチームを率いた主将の村瀬悠介さん（教育協働学科スポーツ科学専攻4回生）。攻守に渡って活躍することでチームを昇格へ導いた。「学生主体に必死に練習に取り組み、学年関係なく意見を交わすようにしていた。練習以外の場でも学年に関係なく仲良くしている。」とチームの雰囲気の良さを語る。ところで村瀬選手が「決めるのは彼だと思っていた。」と信頼を寄せるのは、1部昇格を賭ける最終戦で決勝点を決めるなど、今リーグ得点王に輝く川西真斗さん（教育協働学科スポーツ科学専攻3回生）。コロナ禍での活動を伺うと「サッカーは対人スポーツなのでそれができないのは苦しかったが、対人以外の技術を高めたり、トレーニング班を中心にオンラインでトレーニングやメニュー提供を行ったりしていた。」（川西さん）と気概を見せてくれた。今季「1部昇格」「2部Aリーグぶっちぎり優勝」を旗印に戦ったサッカー部。「苦しみながらだったが、後輩に1部の舞台を残せて良かった。苦しい時期は続くと思うが、できる精一杯、そしてそれ以上の努力でインカレ出場、Jリーガーなど個人の目標をもって頑張って欲しい。」と述べる村瀬選手に対し、「4回生が残してくれた大きな舞台を無駄にしないように、そしてこれからの大教サッカー部が上に行けるよう、試合で活躍することで感謝の気持ちを示す。」と川西さんが応じた。「点を取る気持ち、身体の強さやボールを収めるところは誰にも負けない」と自信を見せる川西選手はJリーガー志望。J2リーグのFC琉球へ加入が決定した村瀬選手は「J2というレベルの高い環境でサッカーができるのはとても幸せなこと。1日1日を無駄にせず努力して成長し、いずれはJ1、そして代表にも選ばれるよう努力していきたい」と語る。サッカー部、そして1部昇格の立役者である両者の活躍に今後も目が離せない。

学長杯個人賞 4回生 高木夏海選手 剣道部

高木夏海選手

大教大での競技生活を通じて最も活躍したと認められたアスリートに贈られる学長杯個人賞に、高木夏海さん（教員養成課程小中教育専攻保健体育コース4回生）が選ばれた。受賞の喜びやこれまでの競技生活について伺った。

学長杯を受賞して

第13回全日本学生剣道オープン大会個人の部優勝、第37回全日本女子学生剣道大会団体の部ベスト8。数々の実績を挙げてきた高木さん。「大きな賞をいただきとても嬉しく思います。」と、輝く笑顔がこぼれた。

第13回全日本学生剣道オープン大会優勝を果たして

出身地・石川県で優勝を勝ち取ったその背景には、特別な思いがある。「小さい頃からお世話になっていた先生や先輩方がたくさんいらっしゃいました。その先生や先輩方にお声掛けをいただき、リラックスして挑むことができました。優勝という形で強くなった姿をお見せすることができ、喜びとともに安心する気持ちもありました。」

辛い時もあった

高木さんは剣道を続けることに複雑な念を抱いた時もあったという。「3回生の夏ごろ、様々なことに挑戦できる学生生活でなぜずっと剣道をしているのか分からなくなった」。転機は地元開催の大会だ。「監督や先輩方が『一緒に剣道をしたい』と言ってくださり、自分の力を信じて選手に選んでくださった期待に応えたいと思いました。また子育てや仕事をしながら先輩方が頑張っている姿に影響を受け、自分も頑張ろうと思えました。」

試合にて（右が高木選手）

コロナ禍で全大会中止、その渦中で

大会が中止となっても率先して練習に取り組んだ高木さん。だが、悔しさにも直面した。「3年間かけて太田先生（教員養成課程保健体育部門教授・剣道部部長兼監督）が作りあげてくださったチームの集大成を飾るはずの大会が中止となり、本当に悔しかったです。自分達がどこまで勝ち上がることができるのかすごく楽しみでしたし…。しかし、今まで剣道に取り組めていたことの有り難さに気付くことができました。」

後輩に向けて一言

「剣道に真面目に取り組み、団結しようと頑張る姿を誇りに思います。ひたむきさを忘れず、更に上を目指して頑張ってほしいです」。

先輩・仲間と共に（2018年第37回全日本女子学生剣道優勝大会にて 前列右端が高木選手）

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大教スポーツ

令和3年3月23日（火） 9号

発　行　大阪教育大学体育会
編集長　林洋輔（保健体育部門講師）
編集員　西川詩月（硬式庭球部）/扇颯（卓球部）/米田湧泉（民族舞踊部）/池田裕城（山岳部）/池本早希（卓球部）/藤川了（山岳部）/村上正紀（男子ラクロス部）/山岸沙織（合氣道部）/安部元紀（硬式庭球部）/北辰翔太（山岳部）/小栁湧大（合氣道部）/作山実桜（民族舞踊部）/谷浦雄大（男子ラクロス部）

2面	部活動紹介（体操競技部・ラグビー部）/令和二年度 主な成績・活動一覧
3面	部活動紹介（剣道部・女子バレーボール部）/令和二年度体育会学長杯受賞者・団体一覧
4面	我が体育会（第9回）松原英輝特任准教授インタビュー/保健センター看護師・和田有路（ゆみ）さんインタビュー/コロナウイルス対応・学生スタッフインタビュー/編集後記

勝利へ向かって！大教闘球（ラグビー）!!

ラグビー部

2019年に日本で行われたラグビーワールドカップにおける日本代表チームの活躍など、近年注目度が増しているラグビー。わが大阪教育大ラグビー部は選手28名、マネージャー7名で活動し、関西大学ラグビーフットボールリーグBリーグで活躍している。ところでこのラグビー部は実際にどんな活動を行っているのか、主将の永木淳也さん（教員養成課程中等保健体育コース4回生）にお話を伺った。

空中でのボール争奪戦。プレー再開方法の一つ

――ラグビー部の魅力、そして大教ラグビー部の魅力を教えてください。

ラグビーという競技には、足が速い、また体格が大きいという各選手がそれぞれに持つ個性に適したポジションがあります。そのため小柄な選手であっても状況やポジションに応じて必要とされてきます。大教ラグビー部はそういった様々な個性がまとまり、ひとつのチームになっているところが魅力と言えます。

――今シーズンもリーグ戦が行われました。振り返ってみての感想をお聞かせください。

大学で課外活動を再開できるようになったのが2020年7月頃でした。それゆえその7月までの過ごし方が非常に難しかったです。ラグビーはチームスポーツなので、全員がひとつの目標に向かっていかないとチームとしてまとまらない。各部員が自宅で過ごしている中で、ラグビーに対する熱量（モチベーション、意欲）をどのようにして維持するかを考えながら取り組みました。取り組みとしては週2回、練習と同じ時間帯にZoomを用いて全員で会話しながら自宅でトレーニングをしていました。1回生への入部勧誘についても、どのように声をかけたら良いかが難しく、入部してくれた1回生への対応としては、部の活動内容などの説明をPowerPointを用いてアプローチしました。実際に活動が再開した際も、全員が自宅で自主的に練習を続けていたのでスムーズに全体練習を始めることができました。その後のリーグ戦を振り返ってみても、ほかの大学に比べて練習時間や部員数は少ないですが、自分たちらしい、自分たちがやりたかったラグビーができていると思います。

――新入生・在校生にむけて一言お願いします。

大教ラグビー部は部員の来歴に少し特殊なところがあり、他大学は小学校や中学校からの経験者が多く、同じBリーグの大学を見ても推薦で選手を集めている一方、大教ラグビー部は初心者として多くの学生が入部しています。実際、大学からラグビーを始めた部員たちが活躍しているので、大学からでもラグビーに取り組みやすい環境になっています。また、指導経験の豊富な監督やコーチがいませんので、自分たちで目標や活動の形態を考えながらラグビーをする必要があります。こうした環境が却って人間としての成長、そして目標の達成にはどのような行動をとるべきかを考える力となって自らの今後につながると考えています。

楽しさこそが本懐！次の勝利を目指して！

体操競技部

平日の午前、インタビューに答えてくれた体操競技部主将の成松実咲（教員養成課程中等保健体育コース3回生）さんは、まさに元気溌剌。部員が男女合わせ8名の体操競技部だが、今年は全日本学生体操競技選手権大会にも出場するなどコロナ禍の中でも目覚ましい成果を挙げている。そこで今回はその好調ぶりの秘訣に迫ってみた。

積極性が鍵

体の動かし方や技能のコツなど、積極的に意見を交換するのが体操競技部の基本。顧問である古和悟先生（教育学部学校教育教員養成課程保健体育部門教授）への伺いだけではなく、部員同士も積極的にアドバイスし合うことで心技体を高めていく。個人競技でありながら高い結束力が伺える。

まずは楽しめるか

「何よりも楽しむこと」。活動したり運営したりする中で、最も意識していることは何かと成松さんに伺うと、この言葉が即座に返ってきた。

単純明快な原理とも言えるが単に自分だけではなく部員同士で助言し合い、気持ちを高めていく。部員全員が体操を心から楽しみ、打ち込める環境を作る努力を惜しまない。その姿勢が部全体の良好な雰囲気に寄与しているのは間違いないだろう。

コロナ禍のなかで

コロナと対峙する中で練習時間は減ったものの、練習課題の維持には務めたとのこと。しかしコロナの影響も確かに存在する。以前より体操競技部は学外の選手や高校生が練習に訪れるなど、OB・OGの繋がりも含めて学外との繋がりを重視する活動を続けていた。そしてこれらの交流を通じて得られた技術向上を初めとする好影響がコロナ禍で断ち切られてしまったことは大きな損失だったと成松さんは語る。さらにコロナにより試合の雰囲気も一変した。無観客試合を余儀なくされるその状況下でいかに好結果を残せるか。これが今後の課題となると成松さんは結んだ。

これからに向けて

練習時間が減った分、一度の練習に高い密度が求められる。

「本人ができると思えるか、楽しめるか」（成松さん）

制限下に高い集中力が求められるからこそ、楽しむことを重視。環境に不平を漏らしても始まらない今、どこまでも前向きな主将の成松さんをはじめ体操競技部は、今日も明るく練習に励む。

全員が見守る中、通し練習を行う成松実咲さん

令和二年度 主な成績・活動一覧

部活名	大会名	成績
ラグビー部	関西大学ラグビーリーグ	Bリーグ8位
男子サッカー部	関西学生サッカーリーグ	2部Aリーグ2位　1部昇格
女子サッカー部	関西学生女子サッカー秋季リーグ	2部6位
アメリカンフットボール部	関西学生アメリカンフットボールリーグ DIV.2トーナメント戦	2部6位
男子ハンドボール部	Winter match in Kansai	1勝0敗
女子ハンドボール部	Substitute match of Kansai handball league	10位
硬式野球部	近畿学生野球連盟秋季リーグ	2部6位
準硬式野球部	阪神六大学準硬式野球連盟春季リーグ戦	3位
陸上競技部	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子の部　総合12位
		・400mH5位、6位
		・4×100mR6位
		・4×400mR8位
		・棒高跳び7位
		・三段跳び3位
		・円盤投げ5位
		・ハンマー投げ4位
		・十種競技5位
		女子の部　総合9位
		・100mH6位
		・400mH4位
		・800m4位
		・10000mW8位
		・4×100mR7位
		・4×400mR7位
		・棒高跳び3位
	U20全国陸上競技大会	男子の部
		・400mH6位
		・やり投げ5位
男子バレーボール部	関西学生バレーボール秋季リーグ戦	2部7位
女子バレーボール部	関西バレーボール秋季リーグ	4部1位　3部昇格
男子バスケットボール部	関西学生バスケットボールリーグ戦	2部4位
女子バスケットボール部	関西女子学生バスケットボール交流大会	2部3位
	関西女子バスケットボールリーグ戦	2部6位
バドミントン部	関西学生バドミントン新人戦大会	女子の部
		・ダブルスB優勝
		・シングルスB準優勝
卓球部	関西学生卓球秋季リーグ戦	男子の部　・4部Bリーグ3位
		女子の部　・3部Bリーグ3位
体操競技部	全日本学生体操競技選手権大会	女子の部　・69位
	関西学生体操競技新人選手権大会	女子の部　・18位
	セノ―チャレンジカップ 関西学生体操交流会関西学生体操交流大会	女子の部　・17位

部活名	大会名	成績
柔道部	関西学生柔道体重別選手権大会	男子の部
		・81kg以下級ベスト8
		・73kg以下級ベスト16
		・100kg超級ベスト16
		・100kg以下級ベスト16
		女子の部
		・48kg以下級ベスト8
水上競技部	関西学生秋季記録会	男子の部
		・200m平泳ぎ7位
		・100m平泳ぎ9位
		女子の部
		・200m自由形10位
	関西学生秋季AUTUMN　CHALLENGE	男子の部
		・200m平泳ぎ3位
		・400m自由形4位
		・100m平泳ぎ5位
		・400m個人メドレー7位
		女子の部
		・200m自由形5位
		・200m個人メドレー6位
硬式庭球部	関西学生テニス選手権大会	男子の部
		・シングルスベスト64
		・ダブルスベスト16
		女子の部
		・シングルスベスト8
		・ダブルスベスト16
	全日本学生テニス選手権大会	女子の部　ダブルスベスト8
男子ラクロス部	関西学生ラクロス特別大会	1勝2敗
女子ラクロス部	関西学生ラクロス特別大会	2勝2敗
フィギュアスケート部	関西学生氷上競技選手権大会F部競技	個人の部
		・B級2部女子クラス4位
		・5位入賞
		団体の部
		・B級女子クラス準優勝
	日本学生氷上競技選手権大会	個人　・女子4級クラス2位
剣道部	特になし	
スキー部	特になし	
空手道部	特になし	
合氣道部	特になし	
ソフトテニス部	特になし	
弓道部	特になし	
モダンダンス部	特になし	
L.S.B	特になし	
民族舞踊部	特になし	
山岳部	特になし	

女子バレーボール部　コロナに不退転!女子排球(バレー)力戦!!

コロナウイルスの影響により、各運動部活動は感染拡大防止に向けた工夫を凝らしつつ活動に取り組んでいる。そこで今回は感染防止対策の成果を上げ続けている女子バレーボール部がどのような対策を行っているのかを中心に、主将の小西晴奈さん（教員養成課程中等教育専攻数学教育コース3回生）にお話を伺った。

コロナと部活動

今年度は活動自粛期間が長く、部員の自主性が問われる年となった。「自粛期間中は家で筋トレをしたり、YouTubeのプレー動画を見たりしながら身体を動かしていた」（小西さん）。また定期的にZoomで顔を合わせてトレーニング内容について共有し、全員で集まっての練習は困難でもモチベーションを維持できるような取り組みを行っていた。

7月の2週目に活動を再開してからは、練習時のマスク着用や練習前後の消毒を徹底しながら関西学連秋季リーグ（以下、秋季リーグ）に向けて練習を積み重ねてきた。「思った以上に練習に制限のかかる形が長く続いたが、皆でこれまで協力してきた成果を出すことができた」（小西さん）。チームは秋季リーグ全勝と結果を残し、続く関西バレーボール大学男女選手権大会（以下、関西インカレ）に向けて手応えを感じていた。

インカレ中止、そして4回生の引退

ところが4回生にとって最後の大会である関西インカレはコロナウイルス感染者の急増を踏まえて中止となった。

「中止が決まったのは開催2日前と突然であった。最後まで開催を信じて準備や練習を進めてきた為、4回生はとても悲しそうだった」（小西さん）。そこで関西インカレの代替として大阪教育大学の体育館で引退式を行い、紅白戦などで交流しながら4回生をしっかりと送り出すことができた。

これからの抱負

「コロナウイルスにより多くのことが制限されることで、限られた時間をいかに上手く使うかを考えられるようになった。新チームでは3回生が1人しかいないので、学年の別なく意見を言い合える関係を目指していきたい」（小西さん）と力強い言葉で答えてくれた。

秋季リーグ優勝・2部昇格との目標に向かって歩みを着実に進める女子バレーボール部に今後も目が離せない。

活動を共にしたチームメイト、そして先生方と（4回生引退式にて）

剣道部　修練に工夫あり!剣の道を今磨く時!!

世界中で猛威を振るい続けるコロナウイルスと向き合いながら活動を続ける大教運動部活動の一つで、体育会公認団体の剣道部にコロナ対策を踏まえての活動状況についてお話を伺った。話をしてくださったのは高橋賢さん（教育協働学科スポーツ科学専攻4回生）と菅谷昂生さん（教育協働学科スポーツ科学専攻3回生）だ。

マスクを着用し、ソーシャルディスタンスを保って整列（練習にて）

現在、剣道部には4回生を含めて53人が所属している。しかし、昨今の状況下のなか全部員を一度に集めての練習は難しい。そこで部員を男女のグループに分け、一度に接触する人数を減らして練習に取り組んできた。また全日本剣道連盟の感染防止ガイドラインに基づきながら剣道用のマスク着用や面金にプラスチック製のシールドを付けることで飛沫による感染対策を行っている。更に剣道に欠かせない発声も控え、寡黙な姿勢で稽古に取り組んでいる。

インタビューに答えてくださったお二人によると、4月から6月にかけての活動自粛後、部活動を再開するにあたって部員たちの体力は低下傾向にあった。しかしながら、感染拡大防止の為にマスクを着用した上で剣道を行わなければならない。部員の体力低下を考慮し、活動再開当初は軽度の練習メニューから取り組み始めた。また、練習条件が制限される一方、接触や発声が出来ないことをむしろ好機ととらえ、剣道の形稽古である日本剣道形を練習に加えることで発想を逆転させた。「今までそこコロナ禍以前の練習に近づいているが、そこに至るまでの練習は変化が大きく、大変だった。」（高橋さん）

コロナ禍により試合が全て中止となって苦労したこと

今年度の剣道部員には、活動のモチベーション（意欲）をどのように維持するかといった解決課題が立ち塞がっていた。毎年参加する大会が今年度は全て中止となり、試合での勝利を目標としていた部員は特に大きな影響を受けた。特に4回生は例年11月の全日本女子学生剣道優勝大会を以って部活から引退とされていたが、今年度は7月に同大会の中止が知らされ、いわば強制引退のような形を余儀なくされた。「目標に向けてチャレンジもできず、何をめざして剣道をやっているのかと考えた。」（高橋さん）

来年度に向けての抱負

「秋の関西学生剣道優勝大会及び関西女子学生剣道優勝大会で男子女子ともに優勝し、その後の10月に行なわれる全日本学生剣道優勝大会でベスト16、女子は11月に開催される全日本女子学生剣道優勝大会で優勝を目指して頑張るという目標を部で決定した。今年度は試合が無かった分、4年生の抱いた悔しさもあると思うのでその気持ちと、自分たちの悔しい気持ちも持って行って来年度はしっかり試合で頑張りたい。」（菅谷さん）

来年度への漠然とした不安が今なお強く続く中、いまだからこそ出来ることを最大限に行うことで来年度への力を蓄えている剣道部。その努力が再び大きな舞台で発揮されることを期待したい。

マスク着用と無声により、身体接触の少ない日本剣道型の稽古に励む

令和二年度体育会学長杯　受賞者・団体一覧

タイトル	受賞者・団体	主な受賞理由
学長杯団体	男子サッカー部	・関西学生サッカーリーグ（2部Aリーグ2位　1部昇格）
学長杯個人	髙木 夏海（剣道部）	・全日本学生剣道オープン大会（個人　優勝）
殊勲賞	浦上 喜帆（硬式庭球部）	・全日本学生テニス選手権大会シングルス　ベスト16・ダブルス　予選出場 ・全日本学生室内テニス選手権大会シングルス　ベスト32
敢闘賞	女子バレーボール部	・関西バレーボール秋季リーグ（4部1位　3部昇格）
体育会会長杯	清水 柚華・ 西田 賀杏央（硬式庭球部）	・全日本学生テニス選手権大会　ダブルス　ベスト8 ・関西学生テニス選手権大会　ダブルス　ベスト16
	内藤 源一郎（陸上競技部）	・U20全国陸上競技大会　400mH　6位 ・関西学生陸上競技対校選手権大会　400mH　5位
	稗田 敦哉	・U20全国陸上競技大会　やり投　5位
体育会顧問奨励賞	岡坂 和奏（剣道部）	・全日本女子学生剣道選手権大会　個人出場 ・全日本女子学生剣道東西対抗試合　出場（七将）
	高橋 賢（剣道部）	・全日本学生剣道選手権大会　個人　ベスト32
	内田 大喜 （アメリカンフットボール部）	・日本代表（フラボウルコンバイン・Japan nationalコンバイン）の トライアウトに2度出場
	山下 隼弥（柔道部）	・全日本学生柔道体重別選手権大会66kg級　出場
体育会特別賞	体育会	・新型コロナウイルス禍での活動再開前後の調整等の尽力

我が体育会 第9回

現役生に贈る言葉

大阪教育大学 教育協働学科スポーツ科学専攻 特任准教授 松原英輝先生

松原英輝先生

「温故知新」をテーマに本学体育会とゆかりの深い先輩方にインタビューする本企画。第9回となる今回は本学サッカー部OBでありフランスと日本でコーチ、そして監督通訳の重責を果たされてきた松原英輝先生（教育協働学科スポーツ科学専攻特任准教授）にお話を伺いました！」

――大阪教育大学大学院をご卒業後、同大学にご着任された経緯をお聞かせ下さい。

学生時代から大学教員には魅力を感じていました。サッカーを指導する機会があり、コーチング法やゲーム分析の研究活動など自分の興味があることを仕事としてできますし、特に大阪教育大学には将来指導者になる学生が多いので、その養成に関わるやりがいのある仕事だと思っていました。そして今回ご縁があって本学の教員を務めさせていただくことになりました。

私自身サッカーが好きで、サッカーが好きな子が増えてほしいし、サッカーの好きな子たちがもっとうまくなるように直接的、間接的に関わっていきたいと思っています。そのための一つの方法が大学教員としての就職であり、そのような子どもたちを育てる指導者がたくさん育ってほしいと思っています。自分が学んだサッカーの考え方や指導法などを学生たちに伝えることができれば、彼らを通じて子どもたちに伝わっていくのではないかと思っています。

――大阪教育大学大学院で学び、コーチになるためフランスへ留学された後、日本でプロを目指す子どもやプロ選手への指導、監督通訳を行うなど多彩な経歴を経て現職に至りますが、日々の活動のなかで心掛けていることは何ですか。

「自分の心の声」を聴こうと努めています。大学生になるまでの自分は身近な人のアドバイスに影響されて自分がやりたいと思っていることを選ばず、安全な道を選んでいました。しかし、ずっとそれが心残りだったんです。それで大学院を卒業するときに、大きな進路選択の最後の機会かもしれないと思い、周りの人たちの助言もありがたかったのですが、最終的に自分で決めないと納得できないと思い、サッカーの指導者を目指すことにしました。

フランス人監督通訳兼コーチとして
（Jリーグ横浜F･マリノスにて、左から2番目が松原先生）

――最後に学生に向けて激励のお言葉をお願いします。

はっきりと将来の目標を持って頑張っている学生はどんどん突き進んで欲しいです。一方で過去の私のように将来のことで迷っている学生もいると思います。そういった学生は興味のある本を読んだり、講習会に行ったり、この人の話を聞きたいと思ったら話を伺ってみたり、積極的に行動を起こして欲しいです。自分がワクワクすることは何なのかがはっきり見えてくると思います。私は好きなことに向かうことで生きている実感を覚えるようになったので、私みたいな学生には参考になればよいなと思います。

使用者に寄り添って

～保健センターの取り組みと想い～

インタビューに回答いただいた
保健センター和田有路（ゆみ）さん

コロナ禍以前より学生そして教職員へ健康面でのサポートを行い、コロナ禍以後も相談の受付や熱中症対策等様々な尽力を果たしてきた保健センター。そんな保健センターはコロナの禍中に何を想い、私たちを支えてくださっているのだろうか。センター在職の和田有路（ゆみ）看護師に伺った。

できることが少なくなった中で

センター来訪の相談者数は格段に増え、学生ばかりか授業を行う教員からの相談が増え、業務内容の中心はその対応へとシフト。文部科学省が提示するコロナ対策と相談者の要望との間で対策を講じる日々は、これまでとは「質」の違う忙しさを感じるものであったと和田さんは語る。また、人との物理的な接触が妨げられることで、「相談者に親身に」なることの難しさを再認識したという。センターを来訪する方からの相談のなかで浮上する問題の原因や苦しみのもとを探る日々だったそうだ。

課外活動やこれからの生活に向けて

また、大学から課外活動を許されている各団体が作成した課外活動方針案の精査。要提出の時期には、業務内容の大半がその対応に追われたという。さらに夏季休暇中のコロナ禍における熱中症対策もその一つだ。暑さ指数を表わすWBGT（Wet Bulb Globe Temperature：湿球黒球温度）を学内に設置。マスク着用を求められる中での活動指針を作れるよう、数値とイラストによって注意を喚起した。

このように、構成員のために尽力を続ける保健センターだが、運動部活動もその恩恵を受けていることは言うまでもない。運動部活動はどんな「恩返し」ができるだろうか。和田さんはこう語った。

「スポーツの内容によっては、制限の度合いが大きく違っていて、比較的緩和された今でもまだまだ多くの活動を制限しています。ただ、私たちは活動を楽しめないようにしたいわけではありません。安全に活動を楽しんでほしい気持ちでいっぱいです。ただやっぱり不安や不満、様々なことがあると思います。それをできるだけ溜めこまないように、友達や先輩後輩に話したりしながら、もちろん私たちも相談に乗るので、発散して、安全対策を講じた楽しいスポーツライフを送ってほしいです」

僕達が向き合ったコロナ

～学生スタッフとしての現在（いま）と未来～

新型コロナウイルス感染症対策の中心として奮闘する公益財団法人日本水泳連盟学生委員会関西支部実行委員長・水野光さん（体育会水上競技部・学校教育教員養成課程小中教育専攻数学教育コース4回生）と大阪教育大学体育会会長兼渉外部長・森井員済（かずなり）さん（体育会ハンドボール部・学校教育教員養成課程小中教育専攻保健体育コース3回生）にお話を伺った。

――違った立場でコロナ対策を行うお二人ですが、お互いに聞いてみたいことは何ですか。

森井→水野

森井　試合の運営はどのように動いているのか、何を基準にしているかを教えてください。

水野　日本水泳連盟の下に各都道府県の連盟と学生委員会が設置されているので、ガイドラインは日本水泳連盟を基準にしています。

日本水泳連盟学生委員会関西支部は事務局が大阪に近く、大阪で7月末より試合が始まったので見学と手伝いに伺いました。無観客、入口でのアルコール消毒、健康チェック、入場制限をどのように行うかは参考になりました。また、他県の情報は所属するOBの方から情報をいただけるので、参考にしながら水上競技部員としてどうすべきかを考えました。

決意と抱負を語る森井員済（かずなり）さん（左）と水野光さん（右）

水野→森井

水野　体育会は連盟など根本に位置付く統括組織がありませんが、ガイドラインはどのように決めましたか。

森井　専門的な知識は保健センターの方から指示をいただきました。各部活動が安全に活動できるようにガイドラインに沿って課外活動をするにあたってのルールを決めたり、体育館で密にならないために体育館種目の部活動と連携をとって対策したりしていました。課外活動係や保健センターの方々に確認をいただき、修正を経て、大学に上申するとの流れで進めました。ガイドラインの原案は課外活動係と保健センターの方が考えてくださっています。

今後の対策と抱負

森井　基準の緩和を見誤らないようにしたいです。みんなで対策できるように学生と大学側の仲介役として連携を取りたいと思います。

水野　感染の終息を信じて頑張りたいと思っています。また仕事の効率化ができるところもあると思うので、運営も選手もやりやすく快適に活動できるサポートをしたいです。

編集後記

今号の大教スポーツの編集を担当いたしました、スポーツ科学専攻3回生の西川詩月と申します。今号を作成するにあたって、慣れないことばかりで苦心してばかりでした。しかし、頼りになる広報部部員の活躍や私のゼミの先生でもある林先生にご指導いただき完成に至りました。この場を借りて御礼申し上げます。

今年度はコロナウイルスによって多くの体育会学生大会が中止となりました。大会に出場することなく、引退された4回生も少なくないと思います。そこで4回生をはじめとして、様々な思いを抱えた体育会所属の学生にお話をお聞きしました。

また、感染拡大防止に努めてくださっている保健センターの方にもお話をお伺いしました。その為、今号は例年とは少し違った内容と感じる方もおられるかもしれません。いつもと少し違った記事を楽しんでいただければ幸いです。

最後になりますが、今号の編集、取材に関わっていただいたすべての方に心からの感謝を申し上げ、編集後記といたします。

教育協働学科スポーツ科学専攻
3回生　西川詩月